



みんなちゃんとシートベルト締めてね～！

「春の全国交通安全運動」より

平成17年 5月号

広報 

いしし富士

No203

一般会計

42億5,000万円

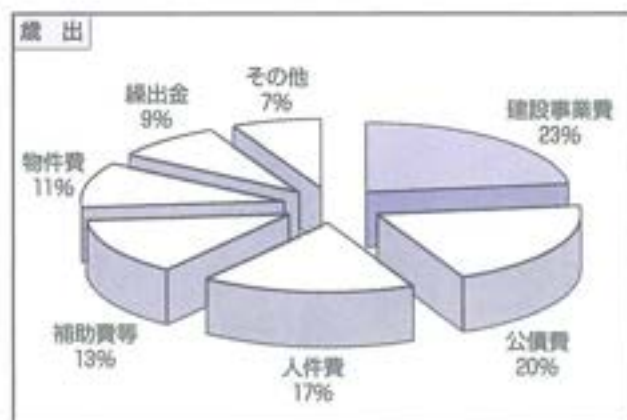
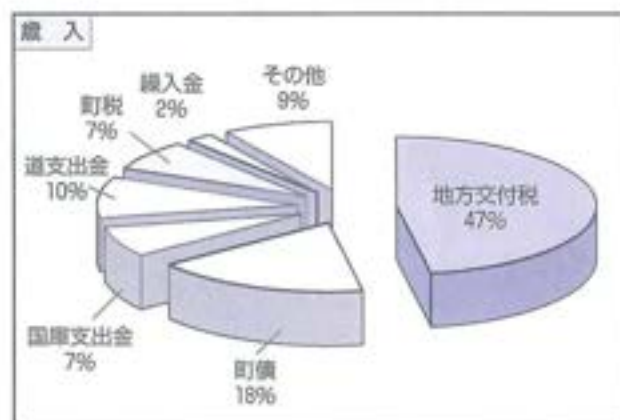
平成十七年度の

まちづくり

スタートしました

歳入		単位：千円
科 目	予 算 額	
町税	305,513	
地方譲与税	43,300	
利子割交付金	2,500	
地方消費税交付金	38,000	
自動車取得税交付金	12,000	
地方特例交付金	9,000	
地方交付税	2,003,000	
交通安全対策特別交付金	1	
分担金及び負担金	24,859	
使用料及び手数料	92,248	
国庫支出金	304,897	
道支出金	410,059	
財産収入	44,783	
寄付金	1	
繰入金	98,000	
繰越金	1,000	
諸収入	111,239	
町債	749,600	
合 計	4,250,000	

歳出		単位：千円
科 目	予 算 額	
人件費	731,976	
扶助費	97,481	
公債費	854,997	
物件費	449,385	
維持補修費	126,774	
補助費等	562,748	
積立金	3,168	
投資及び出資金貸付金	62,040	
建設事業費	976,517	
災害復旧費	17,430	
繰出金	364,484	
繰上充用金		
予備費	3,000	
合 計	4,250,000	



各特別会計の予算は…

▼簡易水道特別会計	1億4,007万円
▼下水道事業特別会計	4億4,921万円
▼港湾整備事業特別会計	600万円
▼温泉事業特別会計	1億5,756万円
▼国保事業特別会計	3億8,544万円
▼老人保健特別会計	4億8,553万円
▼介護保険事業特別会計	3億2,790万円
▼介護サービス特別会計	4億7,449万円
▼歯科施設特別会計	4,234万円
▼国保施設特別会計	1億1,355万円

■目的別歳出予算

単位：千円

科 目	予 算 額
議会費	62,116
総務費	413,237
民生費	450,089
衛生費	354,279
労働費	206
農林水産業費	131,682
商工費	212,157
土木費	1,292,603
消防費	166,297
教育費	288,829
公債費	854,907
災害復旧費	17,430
諸支出金	3,168
予備費	3,000
合 計	4,250,000

平成十七年度 町政執行方針

私が多くの皆様のご支援をいただき、町長という大役を担わせていただきましたから早や三年が経過し、今任期最終の年度を迎えることとなりました。

この間、皆様から熱意あふれるご提言とご協力をいただきましたことに、心から感謝とお礼を申し上げます。

「利尻富士町の夢をかたちに」をテーマに、まちづくり総合計画の六本の柱を軸として、ふるさと利尻富士町のまちづくりを目指し、厳しい行財政の環境の中ではありましたが、漁業者の生産の向上対策、福祉の充実、生活環境整備、教育文化の向上等の推進を曲りながらも図ることができたと思っておりますが、これもひとえに、町民の皆様を始め町議会のご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

こうした状況のなかで、私は、利尻富士町政を担う町長としての責任の重大さを自覚し、社会状況を見極め、最大限の力を振り絞り、夢と希望を持って行政と議会及び町民の英知を結集し、積極的な行政運営に取り組む覚悟であり、現下の厳しい現状を踏まえ、知恵を出し合い、この困難な状況を乗り越えるため、常に行財政改革の推進と歳出の見直しなどを進め、限られた財源を有効かつ効果的に使用するため、横断的にいろいろな視点で事務事業を見つめ、どこに何が必要か「選択と集中」を行い、今後とも、さらに地方自治の確立を目指した行財政運営を図っていく所存であります。

そこで、施策の柱に五項目を掲げ、施策を講じますし、これが実現のために一般会計におきましては、前年度比六・七%減の四十二億五千万円とし、特別会計と合わせた総額を六十八億三千二百九十万円（前年度比一・八%減）の新年度予算を編成いたしました。

夢と希望を持って
行政と議会及び町民の
英知を結集し、積極的な
行政運営を営む



施策の柱

- 第1 活力ある地域産業のまちづくり
- 第2 思いやりと真心で安心に暮らせるまちづくり
- 第3 住みよい環境を創る豊かなまちづくり
- 第4 みんなで創る希望あふれるまちづくり
- 第5 効率的な行政運営と健全財政のまちづくり

平成十七年度においては、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が回復傾向にある一方で、公債費が高い水準で推移することや社会保障関係経費の自然増等により、依然として大幅な財源不足を生じるものと見込まれております。

一方、町村合併について、平成十七年三月で期限を迎える合併特例法のもと、利尻町・利尻富士町任意合併協議会において協議を重ねてまいりましたが、新町の事務所の位置で合意を得ることができず、昨年九月三十日の第十六回協議会で止む無く解散に至ったことは皆様ご承知のとおりであり、それゆえ自立の道を選ぶこととなり、益々厳しくなる財政状況を考慮し、行財政改革を積極的に推し進めるため、行革推進室を設置し、行政改革推進委員を委嘱して種々検討していただいたところであり、その結果を当初予算に反映させていることをご理解賜りたいと存じます。

第一 活力ある地域産業のまちづくり

本町の基幹産業であります水産業の昨年の水揚げ額は、阿漁協あわせ約十五億五千万円となっており、前年対比九七%、金額で約五千万円の減となりました。

中でも多くの漁業者が着業しております「ウニ・ノナ・昆布」については、「ウニ」が約三九トン、金額で四億四千万円、「ノナ」では約二七トンの一億九千六百万円の水揚げがあったものの、ウニは金額で二千万円の減、ノナつ

いては約二・二トン、金額で二千五百万円の減産となっております。また、「昆布」については、天然が昨年より約六〇トン増の九四トンで一億七千八百五十五万五千円の生産がありました。養殖昆布では新規業者もあつたことなどから、約一二トンの増産となりましたが、金額で約千五百万円の減となっておりここでは低価格が響いた結果となりました。

漁船漁業では「サケ」や「ヒラメ」のように、今まで取り組んできた「つくり育てる漁業」が着実に成果を見せてきているものもあり、昨年の秋サケは、前年の一五六トンから大幅増の二七二トンで三千万円の水揚げとなり、ヒラメについても五トン増の三二一トンで四千七百万円の生産となっております。

又、昨年大きく伸びた魚種では「なまこ」があります。漁獲量が六八トンで一億五百万円の水揚げとなっており、今後はより一層の資源管理を図りながら継続した水揚げが続くよう期待をしております。一方大きく期待をしておりませんでした、両漁協の主力とも言える「かれい・ホッケ・いかなご・タコ」等については総じて減産となったことからトータルでは昨年に若干及ばない水揚げの結果となった次第であります。

迎える平成十七年度は、国・道の各種制度を活用しながら、更なる資源造成を図るとともに漁家経営の安定と所得の向上を目指し、漁協等関係機関と一致協力して「活力に充ちた水産業」の振興に努めてまいります。

これまで、北海道が事業主体として継続して進めてきております、利礼海地区広域漁場魚礁設置事業では、鬼脇



～ナマコ漁水揚げより～
今年も順調に水揚げされたナマコ漁業。港も最盛期にむけ動き出した。

に大型魚礁（F P型）三二八基、増殖場造成事業として金崎沖にタコ産卵礁二七〇基を設置してタコ及び魚族資源の増大を図ります。又、金崎地区には北海道の事業で整備された囲い礁が多数設置されており、中には一部が砂に埋まっているなど利用度が低下しているものが見られることから、この施設に石材を投入する維持補修事業についても継続して要望を進めてまいります。

例年、冬から春にかけて日本海側を中心に来遊するトドにより刺し網等に甚大な漁業被害が発生し、漁業経営に支障をきたしていることから、トド被害防止対策事業として、ハンター及び船長の雇用賃金を引き続き予算計上しており、刺し網漁業等の安定した操業と生産を図ります。

平成十七年度からは、国の新規事業として「離島漁業再生支援交付金」制度がスタートすることとなりました。この制度は、今まで離島の漁業者が海城環境を適切に管理・保全をしているとの考えのもと漁業者の減少・高齢化が進む中でこれをそのまま放置すれば、離島の大切な地域資源である漁場の活用が十分に行われなくなり、本土の漁業者にとっても前進基地としての機能が失われることになるという危機感の

もと、こうした厳しい状況の離島漁業の再生を図るため、地域の創意工夫により最大限の漁場活用を行うことが必要不可欠であるということから新しい交付金制度が発足したものであり、このため、漁業基盤となる漁場の生産力向上や利用に関する話し合い、合理的な利用や取り組みをするための環境を整え、生産力向上のために集落の創意工夫を生かした新たな取り組みを促進する必要があることから、その活動を下支えするため交付金により支援するというものであります。

■離島漁業再生支援交付金
制度の概要について

- ・交付基本額
- 1漁家あたり 136,000円(予定)
- ・負担割合 国 (1/2) 68,000円
道 (1/4) 34,000円
市町村(1/4) 34,000円

交付予定金額(第11次漁業センサス(平成15年調査))の漁家戸数により試算すると…

- 鱈泊漁組⇒289戸⇒39,034,000円
- 鬼脇漁組⇒155戸⇒21,080,000円
- …町費負担額⇒5,270,000円となる。

制度では、「市町村」は交付金の交付を円滑に実施するため対象地域、地域漁業集落の現状、本事業による漁業の振興方向に関する目標、関係機関との連携、交付金の使用方法等を定めた「離島漁業集落活動促進計画」を策定することとなっております。

また、対象集落では市町村が策定した促進計画に即した「集落協定」を策定し、市町村長にその認定を受けるも

のとなっており、現時点ではまだ詳細な要綱・要領は示されておらず、この対象集落については、新規事業でもあり、また、かなりの事務量が予想されることなどから、小さな集落単位ではなくそれぞれの漁協を一つの単位とし本町では(鱈泊・鬼脇地区)を想定しながら計画を作成したいと考えております。

この集落協定には、目的、代表者、構成員の住所・氏名、漁業世帯数、計画期間などが記入されることとなっておりますが、交付金の交付対象行為となる、漁場の生産力向上に関する事項(種苗放流、藻場・干潟の管理改善、植樹、海岸清掃、漁場監視活動など)や、集落の創意工夫を生かした新たな取り組みに関する事項など、事業内容が具体的に盛り込まれることとなります。望のありました、「ウニ類の移植放流事業」「ウニ人工種苗放流事業」、昆布漁場造成事業としての「ヨレモク駆除事業」、ウニの害敵であるヒトデ・カニ類の「害敵駆除事業」などの各種事業は、交付金交付対象行為として漁協単独実施が可能になるものと思われ、正式な戸数などについては制度実施となる四月一日の漁家戸数が基準となるものと思われ。

漁港、海岸等の基盤整備では、北海道の事業で継続して整備が進められませんが、南浜漁港では外防波堤一三三mの施工が予定されているほか、海岸整備で新たに港町の海岸護岸約三〇m(岸本宅前)の着工が見込まれております。また、鱈泊海岸、石崎海岸についても継続して護岸整備が進められる見込みとなっており、これ以外の海岸保全事

業につきましても今後とも積極的な要望を続けてまいります。

港湾につきましても、鷺泊・鬼臨両港ともに国の直轄事業として順次整備が進められており、現在、島民生活や地域産業、都市との交流活動の拠点として極めて重要な役割を果たしてあります。鷺泊港では、防波堤（島）にケーソン二面と消波ブロックの据付が見込まれており、これが完成により沖側は五〇mの延長が図られることとなります。

鬼臨港も、従来のケーソンタイプではなく、ブロックタイプで防波堤（島）の陸側への延長三二mが予定されているほか、南防波堤についても、昨年の台風十八号により既設の消波ブロックが崩れたり、沈下するなど大きな被害となったことから、これが災害の復旧についても直轄で事業が行われることになっていきます。また、鬼臨港の内港部分に土砂の堆積があり、振り込み波の影響で係留している漁船が損傷する恐れがあることから、この支障となる部分について浚渫を行うこととしています。これが整備により、両港での入出港時の安全と静穏度の確保が更に図られるものと思われれます。

昨年度、町内では二名の漁業後継者が誕生しました。この二人の後継者には関係者の立会いのもとに報償を贈呈し激励いたしました。

平成十七年度につきましても、鷺泊漁組から一名の後継者について連絡があったところであり、その報償費（磯舟分）を予算計上して支援を行うものとしたいたしました。

これら諸施策を展開することにより、安全操業の確立と漁業所得の拡大を推

進するとともに、近年言われております観光産業との連携を視野に入れた「地産・地消」を進展させるためにも、各関係機関を含めた体制の整備についても検討を進めてまいりたいと思っておりますので、議会の皆様、漁業者、町民の皆様の大ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

観光客の入り込みについては、一昨年度まで右肩上がり伸び続けてまいりましたが、残念なことに平成一六年度では前年度割れが確実な情勢となっております。

十六年度上期における四月から九月までの観光入込客数（延べ人数）は全道的に減少しており、宗谷管内で前年度同期対比七・七%の減、本町においても二二・六、九〇〇人と前年度同期より二二、四〇〇人、九・〇%減となっているほか、それに伴う宿泊者数につきましても九五、六〇〇人と前年度同期より五、八〇〇人、五・七%の減となっております。

このように前年度を下回った主な要因としては、長引く厳しい経済状況を反映した旅行消費の低迷に加え、全国的な猛暑、大型の台風・地震などの自然災害、アテネオリンピックの開催や韓流ブームによる海外旅行者の大幅な増加等の影響を受けたことが推測されます。

また、これからの観光の流れは、以前のような大型団体ツアー中心から熟年層や女性を中心とした少人数によるグループ旅行へとシフトするとともに、旅行費用も節減する傾向にあります。依然として旅行雑誌の各種アンケートにおいては道外・道内を問わず「もう一度行きたい道内の観光地」あるいは

「今後行ってみたい道内の観光地」として利尻札文が常に上位にランクされることから、まだまだ最北の離島観光に対する潜在的な需要があることは確かであり、受け入れ体制やPR方法の再点検により、今後に期待が持てるものと考えております。

これらの背景には、手付かずの雄大な自然、新鮮な海の恵み、おどろかな気風など、最北の離島ならではの地域性や個性が多くの人々を引きつけているからだと思えます。そのためには優れた観光資源を有効に活用する一方で、自然環境の保全、観光客が誰でも安心して快適に旅行できる受入環境の整備はもちろん、何と云っても観光は「目」視覚で楽しむ観光、「舌」食で味わう観光、そして「心」人間の温かさや人情味に触れる観光ということ。「ホスピタリティ」人をもてなす心、この目、舌、心の三つの条件が一体とならなければ心や体を癒す最北離島観光は知名度が高まらないのではないかと考えており、水産業との連携などを含めて様々な課題をクリアしていかなければなりません。

今年の観光については、航空機の利尻・千歳間の通年運行はもとより、夏期間には昨年引き続き本州からのチャーター便や豪華客船「にっぽん丸」が七月九日に鷺泊港に寄港予定であることや、現在の予約状況から判断すると十六年度並の入込みは期待できるものの、現状のままでは宿泊者数の伸びは厳しくなると予想されるため、より一層、観光協会や宿泊業組合、観光関連業者との密接な連携の下、訪れる観光客のニーズを的確に把握するとともに、観光の基本に立ち返り、多くの方

に満足していただけるような体制づくりに努めて参りたいと考えています。



～間引き昆布を袋詰めする漁業者～
「もったいない倶楽部」へ食材として間引き昆布を提供する漁業者

現在、宿泊業に携わる若き支配人の方々が組織された「利尻島観光を考える会」が中心となり、観光協会や宿泊業組合と連携して「利尻島観光懇話会」を立ち上げ、利尻島の新たな魅力探し、魅力づくりのための様々なアイデアを出し合いながら検討しているところであり、従来からの枠に捕われないう利尻島観光に対する斬新な提言をしていただけるものと期待しているところでもあります。

また、先般利尻昆布の価値を高めるための新たな取り組みとして、観光協会や商工会、漁業協同組合など町内の六団体で組織された「利尻春先昆布有効利用調査検討委員会」が設立されました。

これは、京都の料亭や旅館・ホテルなどの著名な調理人約三〇名で結成された「もったいない倶楽部」という会が日本中の利用されずに捨てられる食資源のおいしさを直直と、年一回だけ全国から食材を運り、様々な新作料理を作って食しているそうです。本年は利尻昆布（春先の養殖間引き昆布）が食材に選ばれ、五

月十八日に試食会を開催する運びとなつたことから、先の委員会を組織し「もったいない倶楽部」の協力を得ながら実際に見て・食して、利尻昆布の新たな活用方法を検討するもので、まさに観光客の食卓に提供できることが期待できますし、これからの利尻島振興の起爆剤となり得る可能性を秘めているものではないかと思っており、関係者が現地に向かうことになっていきます。

自然環境の保全については、国の三位一体改革により道で行っていた国立公園の整備が国直轄となることから、町としても今まで以上に公園内の環境整備について、強く要望して参ります。特に利尻山の登山道整備については、今年度国の直轄事業として実施した危険地帯の調査結果を基に、引き続き国において整備箇所の基本調査を実施する予定となっております。

また、利尻島のシンボルとしてばかりではなく、国民の財産でもある利尻の自然を守り育てていくことが大事なことでありと考へますので、今年度も携帯トイレの無料配布を実施し、より一層、普及啓蒙を積極的に展開するとともに、環境省や森林管理署、国立公園連絡協議会との連携を図りながら、島民の宝であるすばらしい自然環境の保全に努めて参ります。

利尻富士温泉保養施設については、お陰様をもちまして町内外の皆様から好評を得ておりますが、本年度からは回数券の販売を十一枚綴りのみとし、町民の皆様には従来の販売方法の廃止による影響がないよう、一ヶ月間限定で利用できる町民入湯バスを新たに販売いたします。これは、月単位での販売で半月バス（十五日用・大人六千円）

と一ヶ月バス（二十五日用・大人一万円）の二種類で夫婦が共同で利用できますので、大いに利用いただけるものと考えています。

また、本年は、これからも皆様方が安心して快適に利用できるよう温泉湯設置整備工事として二千八百四十八万円を計上し、水位センサーや制御盤などの整備を実施いたします。

本町の経済は、ご承知のように水産と観光そして公共事業を中心とし、ここに商工業が成り立っておりますが、昨年は水産業、観光産業ともにやや減少しており、今日のわが国の経済と同様に厳しい状況に置かれています。

商工業の活性化を図るためには、地元購買力の底上げが必要不可欠であり、そのためには企業個々の確かな現状分析を行い、創意工夫を凝らした経営に努める必要があると考えています。

次に、公共事業の実施について申し上げますが、今年度分の町内で国・道など他機関が実施する土木関係の事業は、砂防事業では稚内土木現業所関係で、雄志志内川三号ダム改良（スリットダム設置）・除石排土工、アフトロマナイ川床固工改良三基、二股沢川二号捕捉工一基、宗谷森林管理署関係では、アフトロマナイ川法面緑化（客土吹付）工〇・五ha・谷止工二基、ヤムナイ沢川谷止工一基・床固工八基、導流堤三基、森林整備事業として町内で六箇所五二ha、宗谷支庁林務課では、復旧治山としてオサツナイ沢川谷止工二基・ヤムナイ沢川小規模治山排水工六、〇〇〇m、野中地区ほか保安林改良二三ha、道々の整備では石崎地区本工事六〇m・舗装工（表層）二一m、鮎泊地区舗装工（表層）三六〇

m・物件補償六件、雄志志内地区は物件補償四件、湾内ロックシェッド（上部工）一七〇m、歩道工三三三m、大磯地区防雪柵設置二〇m、町内一円で路肩側溝改修、区画線設置・オーバレイ工事などが予定されております。現時点ではこれらの事業費を個々に提示することは出来ませんが、十六年度ゼロ国債等を含めた事業費総額では対前年度比一七五%の事業量となっておりますので、町内の景気対策の一助になれば幸いでありたい。

以上が第一に掲げる「活力ある地域産業のまちづくり」でありますが、多くの若者が定住できる活気あるまちづくりを進め、異業種間交流など地域の特性を十分に生かした活力ある地域産業の振興・発展に皆様と協力して取り組んで参りたいと存じます。

第二 思いやりと真心で安心に暮らせるまちづくり

利尻富士町の町民の皆さんが、安心して明るく暮らせる町となるためには、保健活動を充実させながら、福祉施策の支援と介護制度の利用、そして医療に臨むという、これが連携のとれた一体となった町づくりが求められておりますが、これに万全を期していくことが課せられた行政の努めであり、実践することが生産性が向上して産業の振興が図られて地域経済が潤っていくものと思えます。

病気は時間の浪費と生活不安を助長させることから、健康は金銭に替え難い一番大事なことであると言わざるを得ません。しかし町内の人口構成も少

子高齢化が益々顕著に進み、これまでも種々な施策を講じて参りましたが、尚一層その内容を吟味した対策が必要となつてきていることも実態で在ります。

本町の六十五歳以上の人口は、一〇七一人で高齢化率が三三・六%となつており、全道十七位の高い数値を示しており、介護認定率や老人医療費から推察すると健康寿命が延びてきており、一方で、死亡原因の一位となっている「がん」の増加や肥満、たばこの喫煙率、肝臓疾患、虫歯などが課題となつております。

このようなことから本町においても、国の「健康日本二十一」の計画のもとに、平成十五年度から手掛けた「利尻富士町健康づくり計画」が、保健所の連携・指導をいただき一六年度末に完成させることができました。しかし、町内の状況を分析しても

- ・糖尿病やがんの生活習慣病の増加・超高齢化による要介護者の増加と生産性の低下
- ・医療、福祉、年金等の社会保障の負担増加
- ・妊娠、育児に不安を持つ母親増加
- ・子供の心の問題の深刻化・不安定な親子関係

の五項目の問題は深刻で、これらの状況を的確に捕えた取り組みをしていくことが必要であり、これまで成果を挙げてきた保健活動と生活習慣の改善と予防を健康づくりの目標に掲げて、個人・事業所・学校・団体・行政の取り組み方の明確化を図り、それぞれ所属の分野で確かな理念を掲げて積極的に実施して参ります。

老人・成人保健関係は、本年も札幌



～フツ葉歯科健診より～
 幼児の健康管理事業は今年も例年どおり開催します。

健診センターによる春と秋のすこやか健診では基本健診、胃・肺・大腸がん検診と結核検診をはじめ、対がん協会の婦人科検診、利尻島国保中央病院・道立鬼脇診療所のミニドッグ、名寄市吉田病院の喉頭がん検診を実施するとともに地区別健康・栄養相談、いきがいの学級、個別健康教育、訪問指導など町民の健康管理の徹底を期していきたいと考えております。

なお、「健康づくり計画」では「健康王国りしり富士を目指して」をサブタイトルとして、「自分の健康は自分でつくる」という健康に対する意識改革の重要性を掲げながら、住民健診では疾病の早期発見・早期治療という観点から、受益者負担を考慮しながら効果的な事業を展開して参ります。

保健事業の実施にあたっては、保健福祉センターに配置している保健師四名、社会福祉主事一名、事務職員一名の体制をもって介護支援事業を兼ねながら精力的に進めて参りますが、本年は、特に事業の円滑化を図るため道と健康づくり財団が推進しているヘルスコンダクター養成事業として講習会を開催し三十名のリーダーの育成を図るとともに、今秋に完成するアメニティパーク温水利用型運動施設の精力的な

利活用のために水中運動指導員の養成講習会も予定しており、町民の健康増進に役立てるよう協力体制を整えていきたいと考えております。

次に福祉施策では、医療費助成制度については、重度障害者やひとり親家庭、乳幼児、老人を対象として北海道が行っている給付事業を有効に活用するほか、町単独の老人医療費助成制度は、全道的には大幅な廃止の傾向にあるものの本町は継続して実施するとともに、六才から十三才未満時の入院費一部助成や、低所得者を対象としている燃料購入費軽減扶助事業も前年同様の配分枠を確保しながら継続して参ります。

また、交通弱者対策である高齢者無料バスは、全道的、管内的にも一部負担の導入や廃止が加速している状況にあります。生活路線の維持確保のため地元負担を大きく強いられている中で、本町では現行通り継続して、通院や老人クラブ活動、健康増進のため温泉施設の利用、地元商店での買物にも寄与して参りたいと考えております。

本年の敬老会、敬老年金の対象者は七十三歳以上となりますが、満百歳を迎える方が三名おりますが、この方々を含めて受給対象者は七四九人となっております。余興アトラクションとして老人クラブ会員によるカラオケ、踊りと保育所・幼稚園児の協力が大変好評をいただきましたので工夫を加えて継続してまいります。

十五年度から全国一斉に始めた「次世代育成支援行動計画」策定が児童の保護者のニーズ調査を経てこの年度末から十一年間の総合的な施策を推進

するための指針となるよう積極的に少子化対策の一層の充実強化を図りながら、次代を担う子供達が未来に夢や希望が持てる活力ある事業の実現に努めて参ります。

特定十四事業の内、「通常保育事業」は現状を維持して運営してまいります。保育料については十四年度から計画的に引上げを行っており、今年度は前年比六・七六％の引上げを見込みながら条例の一部改正案を提案してありますので、事情ご理解のうえ、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

保育所に入所する前の乳幼児や保護者を対象としている「つどいの広場事業」は、現行の月二回実施している「やんちゃ広場」や「トトロの広場」で対応いたします。新規事業としては、「放課後児童健全育成事業」「一時保育事業」「地域子育て支援センター事業」「休日保育事業」を検討しております。

また、特色ある事業として、「子育て応援隊」の設置など全国の事例を参考に世代間交流や高齢者の生きがいを高める仕組みづくりを検討して参ります。介護保険事業については、制度改正として新予防給付と地域支援事業の創設や、居住費用と食費の見直し、低所得者に対する措置、地域密着型サービスと地域包括支援センターの創設、第一号保険料の見直し、要介護認定の見直し等が提示されて、これに伴い、十七年度においてはこれらの改正点を念頭に置きながら次期計画を立てなければなりません。

次に国民健康保険事業につきましても、昨年は議会の皆様のご理解を得ながら国保税の引下げを実施いたしました

が、本年度は医療費の実績と所得状況を見極めながら税率を検討することほもちろん、十六年度の収支状況を踏まえて急激な引上げにならないよう極力努力していきたいと思っております。

医療施設の関係では、島民の外来患者は全体的に減少しており、国保一般被保険者の給付状況を見ると島外医療機関への依存度が高くなっている状況にあります。このため鷺泊診療所と道立鬼脇診療所は地区住民の家庭医的位置付けとして、また、利尻島国保中央病院は一次医療機関として各々の役割分担を明確にしながら地域住民の健康管理を徹底し、医療サービスの低下に繋がることのないよう病院組合と連携を密にしたいと考えています。

鬼脇歯科診療所について、十六年度から札幌医大の派遣医師の新システムの下で二ヶ月から三ヶ月交代という若干の長期化の影響も反映し、診療収入が増加している状況となっております。このため十六年度で更新した歯科ユニット二台を有効に活用して更なる経営健全化のために努力する所存であります。

いずれにしても国の三位一体改革が保健・福祉の分野にも税源移譲や交付金化に移行している現状を踏まえ、これらの動向を的確に把握しながら福祉の理念を大切に、各施策に取り組み

第三 住みよき環境を創る 豊かなまちづくり

町民が豊かで安心のできる住民生活の実現と、経済、社会活動の活性化を

園る上で必要不可欠な道路網の整備や冬季の交通確保などは、より一層の充実が必要であると考えます。このため、今年度も自然休養林甘露水線改良工事（舗装工事一七〇m、改良工事二〇〇m）、鬼脇地区の下水道管渠新設工事にあわせての側溝改修工事（一、四六一m）、町道野塚支線道路（六〇m）と南浜支線道路（八〇m）の新設工事や町道の舗装補修、側溝改修工事などを実施します。

また、冬期間においても、安全で快適な生活環境を確保するため、民間委託業者と連携を密にしながら、状況判断を誤ることなく地域住民へのサービスの低下を招くことがないように、適切な除排雪に万全を期して参ります。

鷺泊市街地の道々拡幅につきましては、現在稚内土木現業所で公共事業評価専門委員会による大規模公共事業の事前評価を得て、平成十九年度に事業認可を取得し、事業着手ができるよう関係機関と協議を重ねながら提出書類等の準備をしている状況にあります。

本町としても、稚内土木現業所や関係機関とも連携を取りながら二十一世紀のまちづくりを視野に入れた利尻富士町鷺泊市街まちづくり事業計画を策定するため、昨年「鷺泊市街地まちづくり協議会」を設立し、二十四名の委員を委嘱してこれまで五回の協議会を開催して参りましたが、今月末には交通安全対策が望まれている主要道々鷺泊市街地の道路拡幅整備計画を視野に入れた、長期的な視点に立った総合的で一体感のある「まちづくり計画」の策定が完了しますので、四月以降の早い時期に私が先頭に立ち議長、協議会長などと各関係機関へ要望活動

を展開して、道々拡幅事業の早期進展を図って参りたいと考えております。



～昨年完成した第二本泊団地～
今年も1棟2戸、物置1棟の建設が予定されている第二本泊団地。

公営住宅の整備は、第二見晴ヶ丘団地二階建一棟八戸、物置一棟、そして昨年と同様に第二本泊団地一棟二戸、物置一棟を建設し、居住水準の向上と定住の促進を図ってまいります。また、総合的な住環境整備の推進を図るため、公営住宅ストック総合計画に基づき、見晴ヶ丘団地三棟一二戸、第二見晴ヶ丘団地四棟二〇戸の下水道接続工事を実施します。

下水道整備については、平成十五年三月末に鷺泊処理区の一部が供用開始され三年目を迎えますが、供用戸数七四一戸のうち一般世帯三二五戸、事業所関係四一戸、公共施設二二戸、合計三七八戸が公共下水道に接続となり、水洗化率は五一％となっております。今年度も、水洗化普及のため個別訪問や回覧版等により補助金や貸付金制度を積極的にPRを行うとともに、下水道処理施設の良好な維持管理に努めて参ります。

一部未整備となっております港町地

区につきましては、今年度は管渠八九五mを実施し、十八年度で管路の敷設が完了し処理区全体の整備が完成しますので、観光振興や公共水域の水質改善に寄与できるものと考えています。

鬼脇処理区については、過疎地域自立促進特別措置法に基づき知事代行指定を受け今年度から本工事に着手し、平成十九年度末供用開始の予定となっております。十七年度の事業内訳では町事業一億二千万円で管渠工事一、九〇〇m、代行事業三億四千九百二十万円で幹線管渠一、一三〇m、処理場（土木・建築）一式、機械・電気詳細設計、用地調査買収の内容となっております。

簡易水道事業では、安定して良質な飲料水の供給を図るため水源池や配水池等の維持管理を継続的に行いながら、老朽化した配水管に起因する断水事故防止改善に取り組みます。また、鷺泊水源池の一号・二号水源の湧水伏流水量が少しずつ低下している状況に鑑み、安定水量確保と合わせて四〇m/h増量を図ることを目的として昨年度水源調査を実施した結果、有望な下部帯水層（深度二〇m～二六m）が確認できましたので、三号水源を開発するため実施設計委託料として九百四十五万円、水源開発整備工事費として五千万円を予算計上しており、下水道供用開始に伴うトイレの水洗化や夏期間の観光客の入込みにによる水道使用量の増加に万全な対策を講じます。

次に防災及び消防体制と交通安全対策について申し上げます。昨年は本土への台風上陸が過去最多の一〇個を数え、本町においても台風十八号の直撃を受け被害を受けました。また、新潟

県中越地震や道内でも各地で地震が発生しており、今後の地域防災計画の見直しにあたっては、防災連絡体制や避難方法の周知、自主防災組織を結成してきめ細やかな防災避難マニュアルの作成など、対策を講じて参ります。

消防行政は社会の変化に即した多様な対応が求められており、町民の生命と財産を守るため体制の強化に取組んで参ります。救急業務については、去る二月四日に高規格救急自動車納車される物的整備が整ったことから、増加する救急業務についても迅速な対応に務め、救急隊員の技術向上と救急救命士資格取得のため引き続き職員を派遣し、救急体制の充実を図り、町民が安全に安心して暮らせるよう努めてまいります。

また、交通安全は人命尊重の理念に立ち、町民一人ひとりが交通安全の輪に参加することが大切であります。そのため、街頭啓発や交通安全運動など、交通安全意識の高揚を図り、関係機関・団体と連携して、町民総ぐるみで事故防止に努め、交通安全、防犯運動に取組んで参ります。

第四 みんなで創る希望 あふれるまちづくり

人と自然との共生のもと、人と人が触れ合い、お互いに支え合い、補い合っていくことが、まちづくりにとっての基本であると思っております。全ての町民が利尻富士町に住んでよかったですと感じる魅力あるまちづくりには、町民一人ひとりの参加、参画のもと協働ネットワークの形成が重要であること

はいうまでもありません。



～温水利用型運動施設～
完成が間近となり、オープンが待たれる、
温水利用型運動施設。

このため、先程申し上げました「箕泊市街地まちづくり協議会」の策定計画と併せて町民が主体・参加のまちづくりを進めるために、幅広い分野からの意見の集約を行うためのワークショップで策定したアメニティパークプランをもとに、新たな公園づくりを基本構想として、個性と親しみのある地域づくりへの環境整備を目標にしたアメニティパーク整備事業を核として創造性豊かなまちづくりを進めなければならぬと考えています。お陰様で議会や町民の皆様のご理解を得て進めて参りましたアメニティパーク事業はこれまで、コテージ、バンガロー、炊事棟、トイレ棟、フリーテントサイト等が完成し、利尻島ファミリーキャンプ場「ゆーに」として今年五月一日から正式にオープンする運びとなりました。引き続き今年度は中心施設となる温水利用型運動施設のプール本体工事、機械設備工事、電気設備工事などの事業費として二億七千六百万円を予算計上いたしました。ゼロ国債での事業採択

を考えれば今秋には完成できるものと思っており、町民待望の温泉プールが年内にも利用することが可能になります。

このように、これら町民参加のまちづくりを推進するため、町民と行政がパートナーシップを確立し、行政の持つ情報の公開により透明性を確保し、情報の共有化による信頼関係を構築しながら、地域懇談会や各種説明会等を通じて対話を重視しながら「町民の生の声」を的確に把握して希望の持てるまちづくりに反映しなければなりません。

第五 効率的な行政運営と健全財政のまちづくり

現下の極めて厳しい地方財政の状況、さらには国の三位一体の改革など、地方自治体を取り巻く状況は大きく変化しており、一方では少子・高齢化の急速な進展等により、福祉、医療、保健関連の財政負担が益々増大することが見込まれています。また、環境保全や高度情報化社会への対応なども必要になってくるのも当然であります。

こうした動向を踏まえると町村合併の有無に関わらず、抜本的に本町の行政システムを見つめ直さなければならず、行政改革推進委員会に諮問して検討していただいて十七年度分の答申を受けた種々の事項についても当初予算に反映して、財源の確保と歳出の徹底的な見直しと効率化を図りながら予算編成にあたりました。

しかし、町債残高は平成十六年度末で一般会計八十億九千三百三十六万一千

円、簡易水道、下水道、温泉、介護サービス特別会計などで十七億四千四百十八万九千円、総額では九十八億三千五百五十八万円の巨額に達しており、さらには下水道事業の継続事業の実施やその償還の平年度化を予想するとき、財政の益々の硬直化は避けて通ることができないと思っております。ただ、どのような状況下にあっても厳しい財政状況を念頭に置きながらも地域の活性化と地域の方々の雇用の確保は行政の使命であるとの考えのもとに、一般会計の普通建設事業費では継続事業などで九十四万七千円（対前年比一一・四・九％）を予算計上して景気対策の一助にならばとの配慮したつもりでありました。特別会計におきましても下水道事業の伸びもあり六億六千七百五十万五千円（対前年比二八・〇％）の事業費を確保したところであります。また、各特別会計に補填している繰出金は前年度より五千五百六十八万円減となっているものの繰出金総額では三億六千四百四十八万四千円を予算計上いたしました。

また、一部事務組合負担金にあっては学校給食共同調理場改築事業等に伴う負担金が大幅な減となりますが合計で四億七千九百九十三万円の予算化を行い、各一部事務組合の運営にかかる所要の経費を予算計上したところであります。

その結果、一般会計歳入歳出の総額は対前年比六・七％減の四十二億五千万円の緊縮予算となりましたが、不足財源については財政調整基金から三千万円、社会福祉事業基金から千五百万円、減債基金から三千五百万円など総額で九千八百万円の基金を取崩して歳

出との均衡を図ったところであります。今後さらに、国の補助金改革と地方交付税の削減によって財源不足を生じることが必至の状況で、ことさら厳しい状況に置かれている町財政の健全化を図るため、行政改革推進委員会の答申を踏まえ、「行政構造の検証」を積極的に推進し、より一層の行政改革を断行してまいりますので、議会の皆様を始め、町民皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

これからの地方分権社会においては、職員自らが意識改革を図り民間のノウハウを吸収し町職員の役割をしっかりと認識して研鑽していかねばなりません。多種多様な住民要望や相談等に的確に対処し、政策展開を図るうえで職員の資質向上をさらに高め、目標を町民に置きながら積極的に地域とふれあい、共に学ばなから、住民の心を我が心とする行政思考の定着に努めてまいります。

さまざまな課題に対応するため、「親切」「信頼」「スピード」「スペシャリスト」を念頭に行政サービスに努め、簡素で効率的な行政体制の強化を進めるべく機構改革を行うなかで、政策重視、地域重視、目標管理の向上に努めながら、住民ニーズに的確に応え、時代に即応でき得る体制づくりに意を配ってまいります。

平成17年度に行われる主な事業

【一般会計】

款	事業名	事業費	款	事業名	事業費
総務費	財務会計システム整備費	9,151	土木費	自然休養林甘露水線改良工事	66,000
	地籍調査事業	11,922		野塚支線道路新設工事	2,000
	町有施設下水道接続関連工事	15,720		南沢支線道路新設工事	2,400
	地場産品加工施設工事	14,400		町道舗装補修工事	2,200
	相沢自治会館外壁改修工事補助金	2,348		鬼船地区道路改良工事	53,500
	大槻自治会館水洗化工事補助金	1,411		鬼船港浚渫工事	1,050
	土地購入費	100		直轄港湾負担金	150,000
	町長選挙及び町議会議員選挙ポスター掲示場設置工事	700		水洗便所改造等補助金	5,000
計	55,752	アメニティパーク整備工事		276,000	
衛生費	武治部先火葬炉補修工事	2,226		アメニティパーク備品整備	15,300
	計	2,226		公営住宅個別改善工事設計委託業務	242
農林水産業費	町有林保育事業	4,715		公営住宅個別改善事業(単独分)	9,629
	漁業経営管理システム導入事業補助金	254		公営住宅個別改善事業(補助分)	14,851
	福島漁業再生支援交付金	60,384		第二見晴ヶ丘団地建設工事	200,118
計	65,353	建設工事			
商工費	ベンチャー奨励台看板設置工事	383		外構工事	
	計	383		監理業務委託	
消防費	防災行政無線施設埋外局増設工事	7,000		第二本泊団地建設工事	40,500
	計	7,000		建設工事	
教育費	武治小学校グラウンドトラック整備工事	1,200		監理業務委託	
	小学校校舎・教員住宅補修工事	1,500	公営住宅補助積算業務委託料	504	
	中学校校舎・教員住宅補修工事	1,000	飛行場標識施設補修工事	1,607	
	公民館真空ボイラー換台基礎取替・暖房機取替工事	340	計	840,901	
	地域青少年会館暖房器具取替工事	716	災害復旧費		
計	4,756	過半発生直轄災害復旧費	17,430		
			計	17,430	
			一般会計合計	938,749	

平成十七年度
教育行政執行方針



今日、我が国においては、国際化や情報化の進展、少子高齢化の進行、さらには経済、社会情勢の大きな変化のなかで今までの状況から転換をしなければならぬ時期を迎えようとしているが、このような環境の変化に十分に、また早急に対応ができない状況もみられる。

今、国においても各種の改革が進められ、文部科学省では「人間力向上」のための教育改革というところで、時代や社会変化のなかで我が国が様々な課題を乗り越えて真に豊かで教養のある国家としてさらに発展し続けるためには、切磋琢磨しながら新しい時代を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指し、教育のあらゆる分野において人間力向上のための教育改革を一層推進する必要があるとされ「戦後日本」においては「頑張ることを応援する教育」を目標として掲げ、その第一に教育基本法の改正、第二に学力向上、第三に教員の質の向上、第四に現場主義に基づいた学校、教育委員会の改革、

第五に地方が財源の心配なく創意工夫を生かして多様な取り組みが行えるよう国が保障することを前提とする義務教育費国庫負担制度の改革の五の案を示しております。

本町教育委員会としては、国の教育施策を基本とし、次代を担う子どもたちが郷土を誇りに思い夢と希望にあふれ主体性と責任感を持ち心豊かでたくましく成長するよう地域や学校、家庭が育んでいくことが重要であると考えます。

このような認識のもとに常に子どもたちの未来を考えながら「確かな学力」「豊かな心」「健やかでたくましい心身」の育成に取り組んでまいりたいと思っております。

そのためには、確かな学力向上のため基礎的、基本的な知識や技能を確実に身につけさせること、学ぶという意欲や自主的に考え判断する力の育成など学習意欲の高揚や学ぶという習慣の定着にも努めなければならないと考えております。

さらに、自らを律し他の人との協調や相手を思いやる心など「豊かな心」の育成のため、読書や芸術文化に親しむ活動の推進、問題行動等への適切な対応などのため、家庭や地域社会の教育力の向上を図る取組みにも努めたいと思っております。

町民一人一人が自ら学ぶ意欲を高め、社会の変化や問題解決に柔軟に対応できる能力を培い、充実した人生を送ることができるよう学校教育をはじめ、文化、芸術、スポーツなどに至る生涯学習社会の構築を目指し教育行政を推進してまいりたいと思っております。

一、学校教育の推進について

急激に変化する社会のなかで、子どもたちを取り巻く社会や家庭、地域の環境も変わってきており、不登校や問題行動を起こす子は子どもたちの周辺にどこにでもあり、共通認識を持つておくことが大事であり、地域社会の大人それぞれが担う役割と責任において問題行動が起きないような環境や条件を整備を図ることが大切であります。

・生きる力を育む教育の推進について

社会が変化するなかで子どもたちは、社会全体の倫理観が希薄になっていくなど社会や学校でのルールの欠如、低下や学ぼうとする意欲の低下などがみられることから、豊かな人間性を育てるため地域や家庭、学校との十分な連携を図りながら他人とも協調し、自らを律しつつ他人を思いやる心の育成や豊かな人間性、社会性を育てる教育を推進するため、自然体験など教育活動との関連を図り、教師と子ども、子ども相互の好ましい人間関係を築き上げ、子どもたちが夢や希望を育みよりよい人生を歩めるよう自らの生き方を考え主体的に物事を判断したりする指導について進めてまいりたいと思っております。

・豊かな学力を育てる教育の推進

子どもたちが主体的に創造的に生きていくためには、知識や技能のほか学ぶ意欲や自ら課題を見つけ、自ら学び主体的に判断したり行動するなど、問題解決に至る資質、能力等までを含めた確かな学力を確実に身につけさせる教育を進めることが大切であります。

このためには、ティームティーチングや小規模校の特性を生かしたきめ細かな指導の一層の充実を図り、子ども

一人一人の学習状況を適切にとらえるなど指導に生かす評価の充実にも努めてまいりたいと思っております。

・開かれた学校経営

学校教育においては、地域の一人ひとりの意識を強く持ち、家庭や地域社会と連携し開かれた学校経営を進めるとともに教員が研修などを通して専門職としての資質能力を高めたり、教員としての使命をそれぞれ自覚し職務規律の保持に努めたりするなど、地域や家庭から信頼される学校づくりを進めるよう努めてまいります。

・教員の資質向上について

子どもたちに確かな学力や豊かな人間性など「生きる力」を確実に育てるためには何といても教員一人ひとりの意識の改革や能力向上を図ることが大切であります。

特に、子どもたちが学ぼうとする意欲や態度を育成させるためには、教員の資質向上と実践により魅力ある授業を学校全体で目指すようにしなければならぬと思っておりますが、そのためには研修、研究で得た力で子どもたちが「学ぶこと自体による喜びを感じる」ことができるよう指導方法の協議も進めてまいりたいと思っております。

・特別支援教育の推進

特別支援教育については、子供一人一人の自立心や社会性を育むため個性の伸長を促し、将来にわたって豊かな社会

生活を送ることができるよう、個々の障害の状態に応じた適切な指導や配慮によるきめ細かな教育が必要であります。そのためには、保護者との相互理解を図りながら、小学校と中学校、幼稚園とも協議し、さらに関係機関とも連携を行いながら特別教育の充実に向けてまいります。

次に、学校教育関係の施設整備等の主なものとしては、鷺泊小学校グラウンドの整備工事（芝部分の段差解消）百二十万円、各小中学校校舎および職員住宅補修工事の小学校分として百五十万円、中学校分として百五十万円、備品整備関係では庁用備品費、小学校分二十六万五千円、中学校分五十五万円、義務教育教材備品、小学校分八十一万五千円、中学校分七十九万円、学校図書購入費として小学校分十八万五千円、中学校分十四万二千円、このほか教育研究会補助金として百万円予算計上しております。

なお、利尻郡学校給食組合の共同調理場につきましては、三月二十五日をもって工事が完成いたしますが、新年度から器具類などの取扱い、調整などを行い島内の各小中学校に新しい施設からの給食が配送される予定となっております。



～利尻郡学校給食組合
共同調理場落成式～
4/22には落成式が行われ本格的に始動した。

二、幼稚園教育について

近年、少子化、核家族化、情報化の進行など、社会状況が変化し幼児を取り巻く環境も親の意識変化などにより幼児の生活にも大きな影響を与えています。急激に子ども数が減少する親の期待が一人の子どものみに集中することが多いため、過干渉や過保護の傾向が増大して子どもは生活からゆとりがなくなり、戸外で同年代の子ども同士が遊ぶことにも困難が伴う状況にもなっています。テレビやビデオを見たりの生活で一日を過ごしている状況ともなっています。自然とのふれあいの不足が問題ともなっており大人に囲まれてすべてを助けてもらうことが多く生活する上で自立して活動する機会も減少してきている状況にもあります。

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うための非常に重要な時期でもあり、子どもが集団生活を送るなかで子ども同士の関わりや遊び、自然などの様々な体験を通して、生涯にわたる人間としての健全な発達や社会の変化に主体的に対応し得る能力を培う上で基礎となるものであり、幼児期の育ちを支えるために重要な役割を果たすものは、幼児が多くの時間を過ごし新しい人間関係を築く場としての家庭と幼稚園であり、さらに豊かな成長の機会を提供するのが地域社会であります。

家庭は愛情としつけを通して幼児の成長の最も基礎となる心の基盤を形成する場であり、幼稚園は家庭での成長を受けて、家庭の外の広い世界に導き幼児の自立に向けた基盤を育成し、地域社会は様々な人々との交流の機会を通して豊かな体験が得られる場であり

幼児教育を進めるためには、教師の役割も重要な関わりを持つものであり、その第一は幼児の精神的安定の拠りどころとしての役割であり、笑顔や存在そのものが幼児の居場所づくりにより役立ち、心の安定をもたらすものであります。第二に憧れを形成するモデルとしての役割もあります。第三に幼児の共同作業者、幼児と共鳴する者としての役割であり、幼児の動きに共鳴することにより活動の活発化が図られます。第四に幼児の理解者としての役割であり、第五に幼児の遊びの援助者としての役割であり、幼児が遊びのどこに魅力を感じどこに困難を感じているかを読み取り、できるだけ幼児が自分で困難を乗り越えようとする気持ちを大切に、援助のタイミングを考えるなどにより幼児の主体的行動が形成されていくものと考えます。

これらのことから、教師は一層の研究、研究を行い、資質の向上に努め家庭と幼稚園との連携、小学校との連携や保育所との連携にも努め、子ども一人ひとりの良さや可能性を伸ばすよう、また一人一人の発達に対応した「生きる力」を育む教育に重点を置き信頼される幼稚園として運営を行ってまいりたいと思っております。

三、生涯学習について

学びというものは、学校教育だけで終わるものではなく、生涯にわたって学び続けることが重要なことであり地域全体で進めなければならないものと考えます。各学校においても、生涯学習社会における学校教育について明確にとらえ、幅広い視点から学校としての役割や地域との関連を考え、地域を拓く人づくりを重視した学校経営の推



～雪投げボランティア
活動より～
本小の児童が、独居老人の雪投げに参加した様子

従来、学校教育と社会教育の連携、協力については、相互に足りない部分を補完し合いながら進められてきておりますが、今後はさらに地域の人たちが持つ知識や技術を教育活動に適切に取り入れ活用することにより教育活動の多様化とその質の向上にもつながるものと考えます。

これらのことから、利尻富士町の生涯学習を一層進めるため、個人や家庭、地域や学校のそれぞれの個性を生かし、各関係団体の連携をさらに深めて、町民一人一人が自己を高め生涯にわたって学ぶことができる生涯学習社会の構築のため、利尻富士町生涯学習推進計画のもとに推進したいと考えております。

・社会教育

それぞれの人生観や価値観が変化し、また地球環境や資源エネルギーの節約、男女の固定的役割や観念の変化など社会が急速に変化している状況のなかで、人々が社会生活を営む上で理解し体得していくことが望まれ、課題も増大してきている状況にあり、これらの問題解決の方策としては、やはり自らが学習する意欲と能力を養い、問題解決に主体的に取り組む態度を養っていくこ

とが必要であり、特に地域内の高齢者や子どもたちとの交流の機会を多く持ち、地域のニーズに合わせた各種事業を関係団体と協議し協力をいただきながら、学校教育と社会教育との連携、融合に努め事業を推進したいと考えております。

なお、青少年健全育成の関係については、青少年健全育成町民会議へ五十万円の補助金を計上しており、親子や地域とのふれあいなどで有効活用させたいと思っております。ほかに、ブックスタート支援事業として十萬円の予算を計上しております。この事業はすべての赤ちゃんとその保護者に絵本を手渡す運動で、親子同士のコミュニケーションの機会を「絵本」を介して持つことを推進することを目的としております。



～絵画教室より～
昨年4回にわたり開催された絵画教室では、延べ55人が参加した。

・社会体育

スポーツは人間の心と体の健全な発達を促すとともに、生涯にわたって明るく活力に満ちた生きがいのある社会に大きく寄与するものであり、町民の一人ひとりが心身ともに健康で健やかな生活を送るために自らの健康保持と増進を図っていくことが不可欠であり、生涯学習とともに生涯スポーツの振興は極めて重要であると考えます。町民誰もが参加できるスポーツの推進

を視野に、指導者の育成など既存スポーツの充実を図り、体育関係団体との連携を図りながら地域に根ざした各種体育事業の推進を図るため、体育関係事業、施設整備等の主なものとしては、体育協会補助金として百十七万円、さわやかマラソン実行委員会補助金として二十七万円、水泳教室指導予算として五十万円、地域青少年会館暖房器具取替工事費として七十一万六千円を計上しております。

・文化芸術活動の推進

文化の振興については、町民一人ひとりが心豊かで潤いのある生活を営むため、文化、芸術などへの関心や意欲が高まるように、創造性あふれる多様な文化活動、芸術活動を支援すると共に、自主的な活動や鑑賞する機会を充実することが必要です。

本年度の文化振興のため、文化協会への補助金として三十六万円計上しているほか、小中学生を主な対象としております北海道文化財団による巡回小劇場の公演費として三十万円を計上しております。

文化財保護活動については、伝統的な文化の保存や伝承について、文化財保護専門委員会や関係団体とも協議し活動の支援に対しても努めてまいります。また、町内外に眠る資料の調査や取集については、個人や各機関と連携を密にしながらか実施し、保存、管理に努めてまいります。さらに、平成十六年度に作成しました町指定文化財の紹介冊子「りしりふじの文化財」も活用しながら、展示や広報による公開、学校や地域での教育を通して、町民の皆様へ還元を図っていききたいと考えております。



《健康づくり計画について》

今、全国で、みんなで作って、みんなで実行する健康づくりが展開されています！

国の「健康日本21」

北海道の「すこやか北海道21」

宗谷の「宗谷健康プラン21」

これらの計画を踏まえて、私達のまちでは、より地域性を考え、実行しやすい計画を目指して…

利尻富士町健康づくり計画21

健康王国りしり富士～を目指して 完成しました！

こんにちは保健師です

福祉課すこやか保健係

「利尻富士町健康づくり計画だより」③

町の健康づくり計画がいよいよ完成しました。皆さんのお手元には、もう届きましたか？これからは、できたての計画についてその内容をちよっとずつ紹介して行きたいと思えます。

平成17年4月13日役場にて「自治会長会議」が行われました。その中で桜庭福祉課長は計画を策定するにいたった経緯と今後の町の取り組みについて話し、自治会長さんたちにダイジェスト版が配られました。

計画本文は53ページからなる内容とそれに付随する参考資料で出来ており、とても一度に読める量ではありません。そこで、皆さんにもっと読みやすく抜粋したのが、**利尻富士町健康づくり計画**

21 ダイジェスト版 「健康王国りしり富士」です。今の町の健康課題と、各年代での目標、それに関連する町の事業が書かれています。自分やご家族の年齢に合わせて、各目標を見てみてください。



私達関係者は、これから機会あるごとにこの計画のことを説明し、皆さんによく知ってもらおうと考えています。そして、自分から健康を作っていくように、皆さんと一緒にがんばっていきたくと思っています。ダイジェスト版は10年間使っていただくためにカラーで丈夫な紙に印刷してあります。どうぞご家庭の目につくところにいつも置いておいてください。計画本文は配布はしませんが、いつでも保健センターが役場で閲覧していただけます。



「役場でも、早速取り組み始めました。庁舎内分煙化を実施!!」



今年の4月1日から役場内で、たばこを吸えるところが、はっきりと分けられました。わが町では、全道と比べて喫煙率が高く（男性では2%、女性で7%も高い!）、おまけに、過去10年間（H2～H11）の死亡数の307人のうち41人が「肺がん」で亡くなっており、計画でも喫煙対策を挙げています。昨年5月には国も健康増進法で公共施設での「**受動喫煙（他人のたばこの煙を吸わされること）の防止**」を決めました。今年の2月にはその有害性が証明され、販売方法と使用制限をするために世界条約も成立しました。（自動販売機でのカード利用も始まりますね）。皆さんの職場や家庭ではいかがですか？「こんな取り組みしているよ」というご意見やご要望などありましたら、どんどん教えてくださいね。

↑1階、ロビーの社会福祉協議会の角。（喫煙コーナーの表示をしてあります。）
2階は和室の横、3階は傍聴待合ロビーが喫煙場所です。会議等は原則禁煙としています。どうぞ、ご協力お願いいたします。

● 連載 ⑧ ●

～利尻島の古代を探る① 鈴谷(ススヤ)式土器～

今回は、今から1500年ほど前
鈴谷式土器の話です。昭和17年、
谷北貝塚で発見された土器が鈴
谷北貝塚は、サハリンのアニワ
ススヤ川の河口に位置する大き

わがまち
タイムスりっぷ

と呼ばれていた場所です(地図参照)。鈴谷式土器は、縄文時代(本州では弥生～古墳時代に相当)の後半にあたる4世紀ごろにサハリン方面から伝わり、利尻、礼文、稚内の遺跡を中心に生活の中に取り入れられた土器です。こうした土器には、使われた時代の生活スタイルや使用目的によって、かたちや大きさ飾りや文様など実にさまざまなバリエーションがみられます。土器は、木や石でつくられた木器や石器、骨角器(動物の骨でつくられたつり針やモリなどの道具)などと並んで、当時の生活や年代を知る1つの考古学的な手がかりとなるのです。

利尻島では、利尻富士町役場遺跡(旧役場の建っている一帯)で、平成6年の調査により発見された土器が唯一まとまっている資料です。写真のように復元すると、バケツのような形をした安定感のある平たい底を持ち、文様は器の縁に縄文という撚りひもを押しつけた痕をつけ、さらに小さな穴をあけ、表面には縄文を転がした痕がみられます。利尻島以外で発見されたなかには、底が丸くとがったものがあるなど、使用方法や時期的な違いがみられますが、文様の構成は似通っています。



では、この土器はどのように使われたのでしょうか。そのヒントは、復元した土器にありました。よく観察すると、くり返し火を受けたことによる黒いススヤ焦げがついていることから、土鍋のように煮炊きに使ったのでしょうか。また、遺跡からは、オットセイやニシン、ホッケなどの骨がたくさん見つかっており、それらを材料に海鮮スープや煮込みなどの温かなメニューが並んだことが想像されます。



・参考図書 『新北海道の古代2 縄文・オホーツク文化』平成15年 北海道新聞社
新岡武彦・宇田川洋『サハリン南部の遺跡』平成2年 北海道出版企画センター

鈴谷式土器については、出土例が少なく不明な点が多いですが、最近のサハリンでの発掘調査の成果により新たな肉付けが期待されています。今回紹介した土器は鬼脇の資料館に展示しています。また、お宅に拾った土器や石器などありましたら…

教育委員会 山谷(電話2-1370)までご連絡下さい。

戸籍窓口

★お誕生おめでとございます★

氏名	月日	保護者	続柄	住所
平田 優羽	2. 5	徹	長女	本町
吉田 つづみ	2. 7	秀 昭	長女	栄町
船崎 結月	3. 2	貴	長女	栄町
渡辺 陽輝	3. 17	健一	長男	清川

■お梅やみ申し上げます■

氏名	月日	年齢	住所
高橋 サナ	2. 6	94歳	鬼脇
谷口 ミエ	2. 10	92歳	本町
山上 静枝	3. 18	83歳	野塚
末水 富枝	3. 26	48歳	二石

警察官ご紹介



羽幌警察署から転勤してきました豊田善廣です。離島勤務は初めての経験であり、妻共々これからの生活を楽しみに感じているところです。さて、近年の治安情勢は目に見えて悪化しており、外国人犯罪の急増や犯罪の巧妙化、振り込め詐欺に代表されるように高齢者を狙った犯罪が各地で発生していますが、離島と言えど例外ではないと思います。

また、飲酒運転に対する罰則も大幅に強化され、飲酒運転に対する世間の目も厳しい時代となりました。これから2年間の勤務となりますが、一つでも島に貢献できることがあればと考えていますので、よろしくお願ひ致します。

【善意ありがとうございます】のコーナー廃止について
今まで長い間掲載させていただきました、「善意ありがとう」のコーナーは、4月1日より施行されました。【個人情報保護条例】の関係により、3月号をもって廃止することとなりました。

今後も各施設へは、今までと変わらないご支援、ご協力くださいますようよろしくお願い致します。

編集後記

平成17年度もスタートし、利尻にもようやく春の訪れが感じられるようになりました。

町に目をやると、漁業や観光業等にも活気が始まり、厳しいといわれる17年度にも、明るい話題が聞こえてきます。今年度も、新たな気持ちでよりよい広報誌づくりを目指していきますので、よろしくお願ひ致します。

ベイベートーク

～今月は6人の子供たちを紹介するよ！～



いわき かりん
岩木 花凛ちゃん
H16.12.3生
【両親】孝紀・美洋子
【住所】鬼脇

はじめまして、かりんです。お兄ちゃんにそっくりといつも笑われているの。顔だけじゃなく、天然パーマでフサフサの髪も同じだよ！街で見かけたら頭をなでてね。よろしくね！



かわぐち てるあき
川口 輝明くん
H16.12.9生
【両親】純博・千香
【住所】鬼脇

みなさんはじめまして、てるあきです。ぼくは12月の寒い日に産まれたから、あつーいお風呂が大好きです。お兄ちゃんとおもちゃで遊ぶのも大好きです。早く大きくなって、お兄ちゃんと公園で遊びたいなー。その時見かけたらよろしくね。



くまがい 宙大
熊谷 宙大くん
H16.12.15生
【両親】卓郎・望
【住所】鬼脇

僕は和樹お兄ちゃんが大好き。いつも一緒に遊んでくれるんだよ。よく皆に「お兄ちゃんにそっくり」って言われるんだ。本当に似てるんだって。大好きなママと仲良しになったパパ、お兄ちゃんと僕の事よろしくお願ひします。



かみなり しょう
神成 燎くん
H16.12.20生
【両親】誠・友理
【住所】本町

はじめまして、神成 燎です。僕がニヤ～と笑うと、周りのみんなはメロメロなんだ。おもちゃで遊ぶのはすぐにあきちゃう僕だけど、お姉ちゃんが遊んでくれると、楽しくて泣くのも忘れちゃうんだよね。早くお姉ちゃんと走り回って遊びたいな。みなさんどうぞよろしくね。



ひらたに しょうと
平谷 陽翔くん
H16.12.30生
【両親】康幸・純子
【住所】富士野

こんにちは！ひらたにはるとです。僕はお風呂とお出かけが大好きです。最近は、パパとママと3人で、うつ伏せ体操と寝返りの練習を頑張ってます。早くできるようになりたいなあ。みんなにかわいがってもらってとっても幸せです。みなさんよろしくね！



なかや たかしろう
中谷 隆志郎くん
H17. 1.19生
【両親】隆・由加実
【住所】清川

微弱陣痛に3日、分娩に27時間もかかりましたが、頭が出ただけで産声をあげるほど、元気に誕生しました。それから2ヶ月半たった今は、もはや7kgに達し、泣いても大暴れした日には、パパもママもお手上げです。トホホ…。

交通事故死ゼロ

454日

5月9日現在

デイライト運動
実施中!!

人口のうごき (4月末現在)

	男	女	計	世帯
蘆泊	1,046	1,129	2,175	918
鬼脇	470	522	992	495
計	1,516	1,651	3,167	1,413
昨年	△12	△8	△20	+7